

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 水・2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	地球と宇宙の科学(地球の気象) Earth and Space Sciences (Meteorology on Earth)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:高木保昌/Eメールアドレス: takaki@net.nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部本館3階 /オフィスアワー:水曜日1300~1700			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:地球上で起こるさまざまな気象現象の実態を把握し、人間にどのような影響を持っているか、地球温暖化を視野に入れながら、気象変化を習得する。</p> <p>授業方法:毎回の天気図、天気予報、太陽の日・月の出没を取り入れながら、個々の気象現象について習得する。</p> <p>授業到達目標:天気図を通して、将来の天気変化を判断することが理解できる。</p>			
<p>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要) 気象現象は地球表面を完全に包み、地球上から約1万メートルの範囲で変化をもたらしている。この現象は我々が住む地上約30%と海上約70%上でたえずあらゆる方向に運動し、いろいろな現象を生み出している。この現象を把握するため、大気の構造、循環を知り、気象の移り変わりを理解していく。</p> <p>第1回 :気象学の概要(気象学・気象歴史等)、異常気象</p> <p>第2回 :異常気象、[小テスト]</p> <p>第3回 :大気・構造</p> <p>第4回 :大気循環(第1次~第3次循環)、[小テスト]</p> <p>第5回 :大気の安定不安定</p> <p>第6回 :大気、第2次循環(気団・高気圧、前線帯)、[小テスト]</p> <p>第7回 :大気、第2次循環 (低気圧)</p> <p>第8回 :大気、第2次循環 (低気圧、前線、霧)、[小テスト]</p> <p>第9回 :気象観測 (気象要素)</p> <p>第10回 :気象観測 (地上、海上の気象観測)、[小テスト]</p> <p>第11回 ;システムとして進化する天気予報</p> <p>第12回 :地上・高層天気図と天気予報、[小テスト]</p> <p>第13回 :日本付近の主な気圧配置と日本の四季</p> <p>第14回 :海象(波、うねり、潮汐)</p> <p>第15回 :定期試験 又はレポート</p>			
キーワード	気象・海象・気象観測		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない、講義には適時資料を配付する。 新教養の気象学 日本気象学会編 海洋気象講座 福地 章 著		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度 20%、小テスト40%、期末試験 40%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)	講義日の天気図、日没、潮汐を見ておくこと。		